



心軍家百首

全

~ 4  
982





將軍家口首 弟池院



春二十首

初初春

通季

初春のまきまきしるる 若菜の穂よりまはるる分るる

実澄

若菜の穂よりまはるる 若菜の穂よりまはるる

基澄

若菜の穂よりまはるる 若菜の穂よりまはるる

宗伴

若菜の穂よりまはるる 若菜の穂よりまはるる

お 9

里庭

通孝

内々家の庭より日暮の風を晴らす如く

実澄

そらにけりたる花の影をまじりて白く

基澄

もろもろの葉をわらわらと吹く

宗作

白波の心は風舟の心は雲は花の影は

度々々々々

如孝

移りゆくものもさうしてさうなれば

実澄

雨の心は雲の心は花の影は

基澄

影の心は花の心は雲の影は

宗作

物もさうなり是等の心は

木也若菜

如孝

さうさうさうさうさうさう

実澄

さうさうさうさうさうさう

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

春後

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

折梅

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

折梅

春後

春のあけはけの風はさびしき心なほほろり

書歴

此の書は... 書歴

書歴

... 書歴

書歴

... 書歴

書歴

... 書歴

書歴

... 書歴

書歴

... 書歴

書歴

... 書歴

書歴

... 書歴

書歴

... 書歴

書歴

... 書歴

字存

美花のよもぎは花の香もよもぎ

折花

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

竹の花

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

依花詩人

五季

いふもよもぎは花の香もよもぎ

寶隆

為使しむる事なり人の心を安んずる事なり

奉烟

神を祀る事なり神を敬ふ事なり

宗傳

古の事なり古の事なり

因縁

因果

事あるに因りて果あり

宗隆

古の事なり古の事なり

奉隆

古の事なり古の事なり

宗傳

古の事なり古の事なり

旅美田

田幸

古の事なり古の事なり

宗隆

古の事なり古の事なり

奉烟

古の事なり古の事なり



家作

リ使ふるは其の意を以て其の意を以て其の意を以て

可成

家作

総て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

家作

本に於て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

家作

其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

家作

其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

家作

家作

其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

家作

其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

家作

其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

家作

其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

可成

家作

其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て其の意を以て

宝澄

基法

此の松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

宝法

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

兼親

通孝

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

通孝

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

基綱

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

宝法

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

伴友

通孝

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

通孝

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

基法

松の葉は五月風の日に吹かす松の葉

松の葉

宝珠

蘇州府海州白雲山白雲寺

佛香齋

西華

高僧住持

寶隆

蘇州府海州白雲山白雲寺

基隆

又云

字隆

蘇州府海州白雲山白雲寺

夏十首

首首詩

西華

蘇州府海州白雲山白雲寺

寶隆

蘇州府海州白雲山白雲寺

基隆

蘇州府海州白雲山白雲寺

寶隆

蘇州府海州白雲山白雲寺

岸如心

西華

川原は清い水にわたりて

書屋

見よとや心ゆくも花川の岸に

書屋

花後に宿たはれば

書屋

日はのちまはるるに

書屋

橋のたもとに

書屋

しるはたのちの

書屋

つらむらひの

書屋

日影がに

書屋

中か

書屋

中か

書屋

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

字存

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

杉木

字存

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

字存

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

字存

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

字存

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

杉木

字存

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

字存

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

字存

杉木の葉は枯れぬの事、此の昔より有る也

字存

海老野川

字存

青島の山に生ずる草花の一種

草花

日陰に生ずる草花の一種

草花

その細い葉の草花の一種

草花

花の形が草花の一種

草花

花の形が草花の一種

草花

花の形が草花の一種

草花

花の形が草花の一種

草花

花の形が草花の一種

草花

花の形が草花の一種

草花

花の形が草花の一種

草花

五夜を風よしのりてとてはるかに暮るる

字作

秋の暮のしづかに木は寝てゆく

紅葉

五季

いづれか山出候へる原の別れは秋の暮

字作

川水の早の山出候へる原の別れは秋の暮

字作

木々のもみぢにみちをたぐりてはるかに暮るる

字作

山嶽のしづかに暮るる川水の秋の暮はるかに暮るる

秋二十首

新秋

五季

秋の暮のしづかに暮るる川水の秋の暮はるかに暮るる

字作

山嶽のしづかに暮るる川水の秋の暮はるかに暮るる

字作

山嶽のしづかに暮るる川水の秋の暮はるかに暮るる

字作

山嶽のしづかに暮るる川水の秋の暮はるかに暮るる

野矢七

野矢七

下

野矢七

下

野矢七

下

野矢七

下

野矢七

野矢七

下

野矢七

下

野矢七

下

野矢七

下

野矢七

野矢七

下

野矢七

下



基縁

字伴

芥はるはははの米一粒さきしとてあかしのあかき

八福よあのははのあかきほしあかきほしあかき

因縁

五孝

クあかきのあかきあかきあかきあかきあかき

字伴

あかきあかきのあかきあかきあかきあかき

基縁

あかきあかきのあかきあかきあかきあかき

字伴

あかきあかきのあかきあかきあかきあかき

因縁

五孝

あかきあかきのあかきあかきあかきあかき

字伴

あかきあかきのあかきあかきあかきあかき

基縁

あかきあかきのあかきあかきあかきあかき

字伴

あかきあかきのあかきあかきあかきあかき

之知權

五字

しほのこころのまじりて風を吹かす

言序

おのれをわづらふて風を吹かす

言序

まこと心持のこころを吹かす

言序

おのれをわづらふて風を吹かす

言序

五字

おのれをわづらふて風を吹かす

言序

おのれをわづらふて風を吹かす

言序

おのれをわづらふて風を吹かす

言序

おのれをわづらふて風を吹かす

言序

五字

おのれをわづらふて風を吹かす

言序

おのれをわづらふて風を吹かす

春彦

傳の母は傳をいふの字のまゝに傳のまゝ

字彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

古彦抄

彦彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

彦彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

彦彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

彦彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

松彦

彦彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

彦彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

彦彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

彦彦

彦の字は彦といふに彦といふは彦の字

尾書局

五孝

天啓四年八月廿一日

宣隆

八月廿一日

奉恩

八月廿一日

宗保

八月廿一日

日榮棟

五孝

八月廿一日

宣隆

八月廿一日

奉恩

八月廿一日

宗保

八月廿一日

日榮棟

五孝

八月廿一日

宣隆

八月廿一日

長尾

秋の夜更けにささるる由縁木目様新巻に

宗保

新巻の井戸の井の底にさすりて見ると

草書日

五季

中々書きたるに心あまの底はさすりて

之巻

日よさらばあはれなる風の前よりなすりて

巻尾

なすりて見ると心あまの底はさすりて

宗保

美の巻にさすりて見ると心あまの底は

目下巻

通巻

何の巻にさすりて見ると心あまの底は

巻尾

心あまの底はさすりて見ると心あまの底は

巻尾

出巻の巻にさすりて見ると心あまの底は

宗保

心あまの底はさすりて見ると心あまの底は

日新の巻

通巻

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

書陸

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

書烟

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

書字

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

楊衣出

五季

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

書陸

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

書陸

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

書字

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

紅雲飛丸

五季

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

書陸

あまのりつとてうらたこふくはるのりつとてはるはる

奏魁

ふらふら風車も村のしん風もよりの

宗作

まじりて一打のまじりて

海軍道林

五季

ふらふらと波のまじりて

宗作

海軍道林も村のしん風もよりの

奏魁

まじりて波のまじりて

宗作

まじりて波のまじりて

又十首

海軍

河内老々

まじりて波のまじりて

宗作

まじりて波のまじりて

奏魁

まじりて波のまじりて

宗作

千代に秘蔵しつゝ此のまに傳へたるは

同書也

通書

室の正室座敷の御成るるの御成り書

室座

美のありけりしつゝわの御成り書

書座

しつゝ御成り書

室座

御成り書

推御書

室座

しつゝ御成り書

室座

しつゝ御成り書

書座

しつゝ御成り書

室座

しつゝ御成り書

多夜行書

室座

しつゝ御成り書

書座



昔友の福芝の本よりしりて今幸に此の書を得

巻尾

此の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

字序

此の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

五巻

昔の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

字序

昔の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

巻尾

昔の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

字序

昔の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

巻尾

昔の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

字序

昔の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

巻尾

昔の書はいつの日も手紙の如く書かれたり

字序

三日月の影を照らす月夜に書きたる

夏夜草

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

海草

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

海草

草子

夕陽の影を照らす月夜に書きたる

草子

何なるも家来の親の心にて一甲の心

奉送

又いふは其の心は海家の所にて一甲の心

奉送

國の心は其の心にて一甲の心

奉送

又いふは其の心は海家の所にて一甲の心

奉送

又いふは其の心は海家の所にて一甲の心

奉送

又いふは其の心は海家の所にて一甲の心

奉送

又いふは其の心は海家の所にて一甲の心

奉送

奉送

又いふは其の心は海家の所にて一甲の心

奉送

又いふは其の心は海家の所にて一甲の心

奉送

又いふは其の心は海家の所にて一甲の心

家傳

Handwritten cursive text line 1

Handwritten cursive text line 2

家傳

Handwritten cursive text line 3

家傳

Handwritten cursive text line 4

家傳

Handwritten cursive text line 5

家傳

Handwritten cursive text line 6

Handwritten cursive text line 7

家傳

Handwritten cursive text line 8

家傳

Handwritten cursive text line 9

家傳

Handwritten cursive text line 10

家傳

Handwritten cursive text line 11

Handwritten cursive text line 12

家傳

Handwritten cursive text line 13

書卷一

海に舟を乗せしむるは舟の御用也

書卷二

舟の御用は舟の御用也

書卷三

舟の御用は舟の御用也

舟の御用

舟の御用は舟の御用也

書卷四

舟の御用は舟の御用也

書卷五

舟の御用は舟の御用也

書卷六

舟の御用は舟の御用也

舟の御用

舟の御用は舟の御用也

書卷七

舟の御用は舟の御用也

書卷八

舟の御用は舟の御用也

事修

事修之徳を以て

事修

事修

事修之徳を以て

事修

事修之徳を以て

事修

事修之徳を以て

事修

事修之徳を以て

事修

事修

事修之徳を以て

事修

事修之徳を以て

事修

事修之徳を以て

事修

事修之徳を以て

事修

事修

事修之徳を以て

中巻

巻終

家印

巻終

中巻

中巻

家印

中巻

中巻

中巻

中巻

中巻

巻終

家印

巻終

中巻

中巻

家印

中巻

中巻

中巻

中巻

家保

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

あまのこころ

西条

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

家保

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

家保

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

家保

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

あまのこころ

西条

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

家保

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

家保

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

家保

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ

あまのこころ

西条

あまのこころをわづらひてはるかにうらみかたむけ



宣彦

奉徳

宗伊

重孝

重彦

奉徳

宗伊

重孝

重彦

奉徳

宣彦

奉徳

宗伊

重孝

重彦

奉徳

宗伊

重孝

重彦

奉徳

長

家傳

維新の志を以て天下を治むるは

徳教を以て

人心を正すは徳教の功也

家傳

徳教の功を以て天下を治むるは

家傳

徳教の功を以て天下を治むるは

家傳

徳教の功を以て天下を治むるは

徳教の功を以て

徳教の功を以て天下を治むるは

家傳

徳教の功を以て天下を治むるは

家傳

徳教の功を以て天下を治むるは

家傳

徳教の功を以て天下を治むるは

徳教の功を以て

徳教の功を以て天下を治むるは

白屋

奉徳

宗任

道孝

宗任

奉徳

宗任

雜二十首

社方曉

西孝

宗任

奉徳

1



あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

あはれなるかみなりをまじりてみればあはれなる

1



親の御心を以て御心を以て御心を以て

宗任

若くは若くは若くは若くは若くは若くは

古寺坊

五季

御心に御心に御心に御心に御心に御心に

書屋

御心に御心に御心に御心に御心に御心に

基綱

御心に御心に御心に御心に御心に御心に

宗任

御心に御心に御心に御心に御心に御心に

圓全畫

五季

御心に御心に御心に御心に御心に御心に

書屋

御心に御心に御心に御心に御心に御心に

基綱

御心に御心に御心に御心に御心に御心に

宗任

御心に御心に御心に御心に御心に御心に

古寺坊

書屋

初之なるに... ありし... ありし...

字原

... ありし... ありし...

字原

... ありし... ありし...

字原

... ありし... ありし...

字原

... ありし... ありし...

字原

月... ありし... ありし...

字原

... ありし... ありし...

字原

... ありし... ありし...

字原

... ありし... ありし...

字原

... ありし... ありし...

字原

1

之なることありては、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作

曉の光をよみて、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作  
宗作

形あるは、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作

とて、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作

形あるは、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作

形あるは、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作  
宗作

形あるは、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作

形あるは、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作

形あるは、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作

形あるは、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

宗作  
宗作

数々の...  
...  
...

宗彦

...  
...  
...

宗彦

...  
...  
...

宗彦

...  
...  
...

宗彦

宗彦

...  
...  
...

宗彦

...  
...  
...

宗彦

...  
...  
...

宗彦

...  
...  
...

宗彦

宗彦

...  
...  
...

宗彦

...  
...  
...

宗彦

一

新... 作... 集... 方... 其... 其... 其...

字... 伊

命... 其... 其... 其... 其... 其...

善... 其... 其...

直... 其...

新... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其...

其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其...

其... 其...



Handwritten text in cursive script, likely a continuation of a letter or document.

言啓

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

奉啓

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

宗年

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

道孝

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

言啓

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

奉啓

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

宗年

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

道孝

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

言啓

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

奉啓

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはよう

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おき生儀

おま

おき生儀の御書

おま

おき生儀の御書

おま

おき生儀の御書

おま

おき生儀の御書

おき生儀

おま

おき生儀の御書

おま

おき生儀の御書

おま

おき生儀の御書

おま

おき生儀の御書

右者文明十三年於為早家著列  
和勢之從九月一日から十月廿一日終始  
毎の二首旅之云々

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghosting of the original handwriting.*

212



